

元気な地域づくり交付金事業活動報告会を開催

11月10日、七ヶ宿町活性化センターで元気な地域づくり交付金事業活動報告会を開催しました。各地区の地域づくり委員を始め、地区担当職員、一般の方など約150名の参加がありました。

平成20年度からスタートしたこの事業も今年で5年目となり、最終年度を迎えています。この間、地域課題の解決や地域資源維持活動、新たなコミュニケーション事業などが行われてきました。各地区の取組内容を発表、ふり返しを行い、各地区間の情報交換をすることで、今後の地域づくり活動に役立てるための活動報告会となりました。

また、「地域再生」行政に頼らない感動の地域づくり」と題して、地域づくりの日本一の取り組みとして有名な、鹿児島県やねだん集落のリーダー、豊重哲郎さんの講演会を開催し、その熱意あふれるお話は大変参考になるものでした。



発表の様子

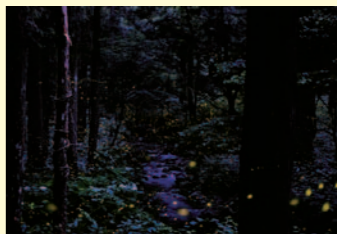


数多くの参加者がありました

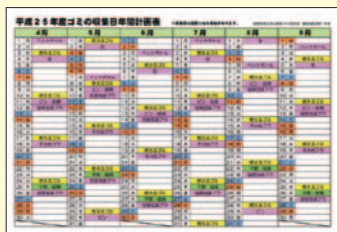
各地区の事業紹介

湯原地区の主な取組

ホタルの里づくり事業



ゴミ収集カレンダーを作成



地域の再発見や、伝統行事等の復活をすることが出来た。子供からお年寄りまで一緒に活動する行事も増えた。委員の打合せ等が増え委員の負担増が今後の課題。

関上地区の主な取組

桜の手入れと観桜会



ゴミ分別勉強会



高齢者のことを考えての地域づくり活動、健康づくりと誰でも楽しめる活動、地域の人に参加したいと思う活動、この地域だからできることを考えていきたい。

関下地区の主な取組

懐かしの写真展



盆火を焚こう



地域づくり委員が少ない。自治会と違う活動で地区住民に認知。元気な地域づくり事業の町と地区の意識の違い。

峠田地区の主な取組

お元気で運動(高齢者見守り)



ふれあい市の活性化



お元気で運動では、重大な事故になる前に対応することができた。5年間の事業は、本当に必要な事業だったのか評価、検証すべきである。

干蒲地区の主な取組

防火教室・健康まつり



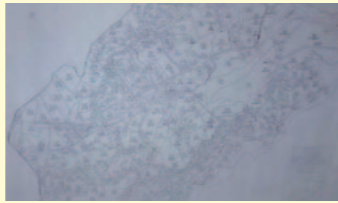
行灯まつりを復活



地域の不安を一気に解消などという大それた視点ではなく、一個一個不安を無くしていくことが、大事であることに気づきました。

長老地区の主な取組

柏木山から長老へ字名変更



ふるさと祭りを開催



他地区に比べ歴史は浅いが、今回の事業で念願だったものが実現できた。原発事故の影響でコミュニケーションが実現できなかった。今後は文化的な取り組みを考えていきたい。

瀬見原・矢立地区の主な取組

シダレザクラを植樹



グラウンドゴルフ交流会



一人暮らしの高齢者宅を見守りするため地域のマップを作成し安否確認等に役立てる事ができた。新しい集落であるため交流事業は有効だった。

滑津地区の主な取組

親子松を利用して案内看板設置



花街道づくり



地区住民に何らかの満足感を与えるものであったか、検討する時間が少なかった。今後の地域づくりにどのように生かしていけばいいのかを検討し、さらなる地域の活性化につなげていきたい。

横川地区の主な取組

ゴミ集積所に屋根を設置



もちつき交流会の開催



幅広い年齢層から、委員となつて地域の話し合いができた。今までのない機会となった。委員以外の住民の方の参加や声が反映されただろうか。

取り組むスピードや温度差など各地区によって違いがあった5年間の事業。しかしそれは当然のことかもしれない。5年前と何が変わったのかという意見もありましたが、地域づくりとは形に見えないものなので目に見える成果という尺度で判断するのは難しいと言えます。今までは違う視点で地域のことを話し合うことができたという意見もありました。人口減少と高齢化が進む現状ですが、住民同士の繋がりや深めみなど話し合いを進めながら課題を解決していくことが大切です。



豊重哲郎さんの感動の講演会。行政に頼らない村づくりのポイントは、「集落内にいる行政マンは集落民、しっかり活躍してもらう」「補助金をあてにしない地域づくり」「自立する地域をつくる」ということ。活動の信条は、「自分たちでやれることは自分たちでやろう」「財源確保のため集落営農に取り組み、結い活動の復活」「文化向上と子どもの教育を空き家対策につなげた」「人に参加してもらったことが大変で大切なところ、命令ではなく心、感動で納得して参加してもらった」など、人の心を大切にすること、人並み外れた情熱を感じるお話でした。豊重さん、お忙しいところ本当にありがとうございました。